

ShibauraCrystal 銀座

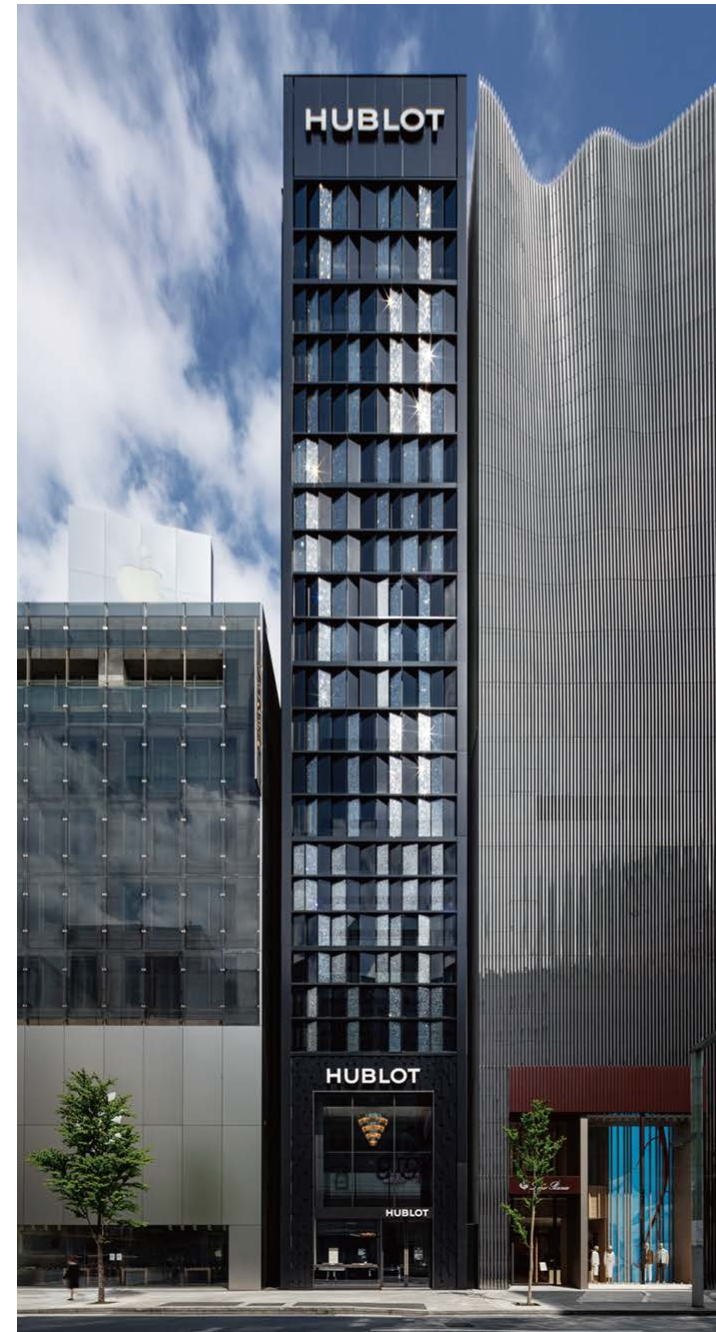
ShibauraCrystal Ginza

No. 05-065-2020作成

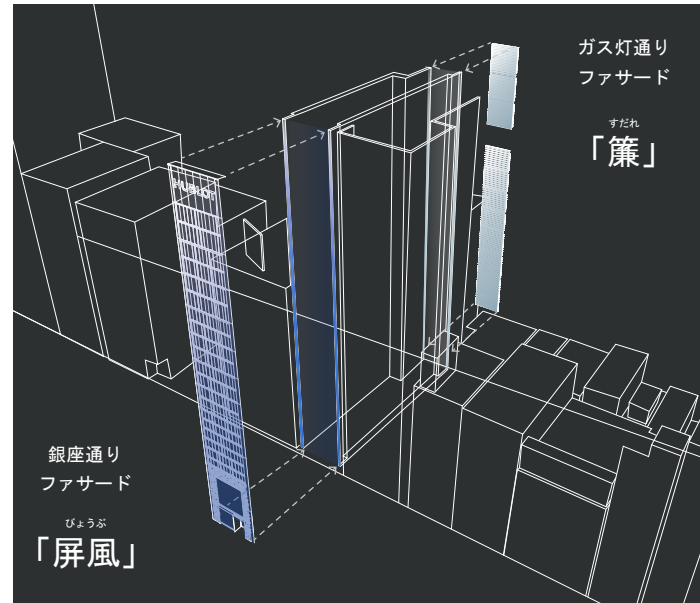
新築
物販/事務所

発注者	芝浦産業株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	KAJIMA DESIGN		E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
施工	鹿島建設		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他	

銀座の街並みに呼応する“粋”なファサード



銀座通りファサード



銀座は相反するような(アンビバレントな)側面が両立している ※1) 通りの個性に対応したファサードとして、銀座通りの賑わいを映し込み煌めく「屏風」と、ガス灯通りの建物が密集する街並みとの間にフィルターをかける「簾」をデザインした。街並みを活性化させるために銀座通りのファサードだけでなく、ガス灯通りを裏通りとしないよう、ビルオーナーのファサードを設けることで、街の回遊性を向上させることを心掛けた。



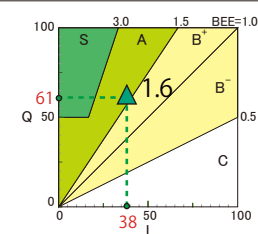
ガス灯通りファサード

永遠に動きつつ永遠に交わらざる平行線は「粋」と看做される ※2)

ファサードは2枚の平行な壁に挟まれている。その端部は、銀座通りでは黒色のアルミパネルがブランドカラーを表し、ガス灯通りでは、研ぎ出したPCaの骨材が通りのスケール感を感じさせる。銀座の二面性、そして「粋」が持つ二元性を表現した。

※1) 竹沢えり子. 銀座にはなぜ超高層ビルがないのか / 三枝 進, 平凡社新書, 2013
 ※2) 九鬼 周造. いきの構造. 講談社学術文庫, 1979

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	BPI	Aランク
竣工年	BEI (モデル建物法)	BEE=1.6
敷地面積	LCCO2削減	2016年度版 自己評価
延床面積		
構造		
階数		

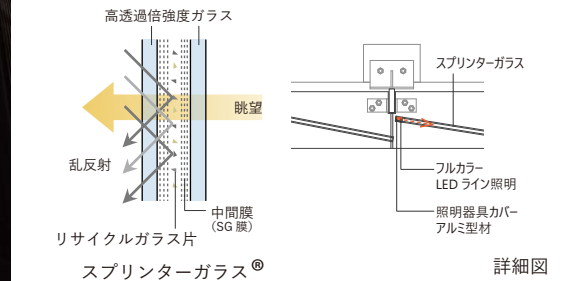


時間の流れとともに、表情を変えるスプリンターガラス

ブランドコンセプト「The Art of Fusion(異なる素材やアイデアの融合)」を表現するファサードとして、新たにスプリンターガラス ※3) (特許出願・商標登録済)を開発した。合わせガラスの中間膜にリサイクルガラス片などを挟み込み、煌めきを生み出すスプリンターガラスとグレーペンガラスとのランダムな配置の組み合わせは、陽の光を直接受ければキラキラと輝き、時が経つと対面する建物を映し込み、夕日の反射光で琥珀色に染まる。そして夜になるとLED照明によりファサードがライトアップされる。



日の光にきらめく 街を映し込む 夕日に染まる ライトアップ



※リサイクルガラス片 = アルミ蒸着ミラーガラスとリサイクル太陽光発電セル

揺れを制御するD³SKY[®]c

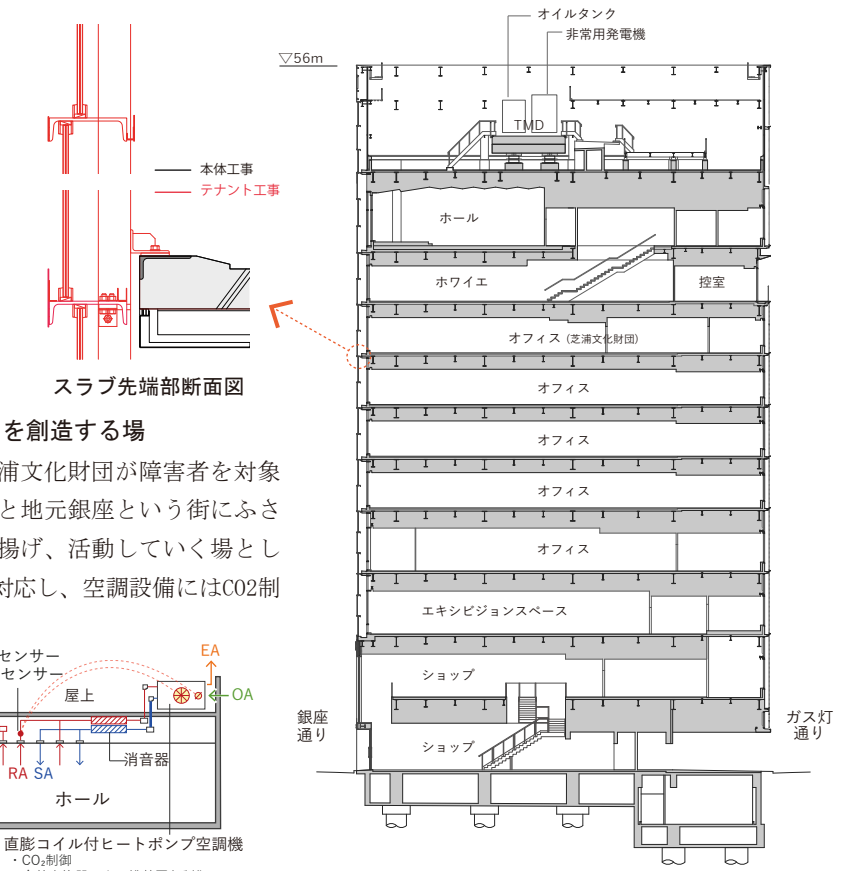
屋上に当社保有技術の制震装置TMD「D³SKY[®]c」のコンパクト版を設置、地震・強風時の揺れを抑え、居住性を向上させた。上部には、BCP対応として2.5日分の電気供給を行う非常用発電機と1,950LのオイルタンクをTMDの鍾を兼ねて設置した。



屋上制震装置「D³SKY[®]c」

高さ56mのスカイラインの形成 変化に対応する持続性の確保

銀座地区地区計画「銀座ルール」に基づき、銀座通りの建物高さ56mのスカイライン形成に貢献した。さらにファサードは、将来のテナント入替えやファサードの更新を想定し、取り替え可能なディテールとしている。時代に呼応して変化する銀座の街並みの持続性を意図した。



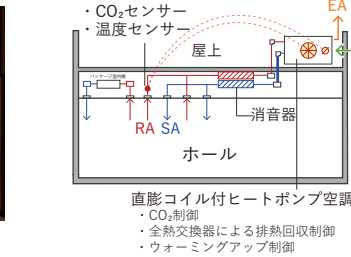
断面図 S=1/600

地域文化の継承 多様性のある銀座に相応しい文化を創造する場

10階には響きを重視した小規模なホールを設けた。芝浦文化財団が障害者を対象とした社会貢献「フィジカル・チャレンジャー支援」と地元銀座という街にふさわしい「江戸文化の継承・普及」の2大コンセプトを掲げ、活動していく場として利用している。多目的な利用による収容人員の変化に対応し、空調設備にはCO2制御を組み込むことで省エネルギー化を図った。



10階 ホール



直膨コイル付ヒートポンプ空調機
 ・CO2制御
 ・全熱交換器による排熱回収制御
 ・ウォーミングアップ制御

設計担当者
 統括: 木谷森世/建築: 坂本弘之、小平 仁、佐藤 建/構造: 末安安次、佐藤大輔/設備: 太田和好、村松繁紀、大滝明香里/
 テナントファサード・インテリア基本計画: STUDIOFORMA/テナント内装: 株式会社エイチアンドエイ/照明デザイン: Lighting Laboratory

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性 (BCP対応)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (スカイラインの形成)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (LED照明、照明センサー制御)
- LR1. 4. 効率的運用 (CO2計測・制御)
- LR2. 2. 非再生性資源の使用量削減 (リサイクル材の利用)
- LR3. 3. 周辺環境への配慮 (光害対策、反射光発生低減)